

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢や希望をかなえる学校」「安全で安心な学校」「地域に根ざし信頼され愛される学校」

- 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」をはぐくむ。
- 安全で安心な学びの場で、思いやりと感謝の気持ちを大切にし、互いに認めあい尊重しあう「豊かな心」をはぐくむ。
- 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」をはぐくむ。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

- 「わかる授業」の展開により、自信や達成感をもたせ「学ぶ楽しさ」を知ることで、学習に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかる。
 - 生徒一人ひとりの実態を把握し、主体的な学びを実現するための授業力向上に取り組む。
 - ICTの活用等を通して、対話的な学びを実現するための授業研究に取り組む。
 - 学んだことを活用し、自らの可能性を活かすことのできる深い学びを実現するための授業研究に取り組む。

- 多様な進路実現のための学力向上および社会人基礎力の育成に取り組む。

ア. 3年間を見通したキャリア教育計画により、学びに向かう力を育成する。

イ. 個々の目標に応じた進学支援体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすい」(平成 28 年度 57%)を平成 31 年度には、65%とする。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導が充実している」(平成 28 年度 66%)を平成 31 年度には、70%とする。

2. 「豊かな心」の育成

- 教育相談体制の充実により、一人ひとりを大切にする教育を推進する。

ア. 学校生活支援カードの活用やきめ細かい生徒の実態把握により、情報を共有して迅速に対応できる支援体制を整える。

- あらゆる教育活動を通じて、人権尊重教育を推進する。

ア. 学校いじめ防止基本方針の徹底をはかり、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。

イ. 3年間を見通した人権教育計画により、思いやりや感謝、他者を認める人権尊重の精神および自尊感情を育成する。

- 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を育成する教育を推進する。

ア. クラス開きプログラム等の人間関係構築プログラムの研究および導入に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的回答(平成 28 年度 51%)を平成 31 年度には 60%とする。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的回答(平成 28 年度 50%)を平成 31 年度には 60%とする。

3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成

- 規範意識と社会性を高める教育を推進する。

ア. 一人ひとりを大切にする丁寧で粘り強い生徒指導により、「なぜ」ルールを守ることが必要なのかを理解させ、遅刻者数の減少とマナーの向上に取り組む。

- 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが積極的・自主的に活動できる力を育成する。

ア. 3学年を見通したHR・総合的な学習の時間の計画により、生徒にできるだけ早い時期から自分の将来について考えさせる。

イ. 部活動の活性化と生徒会活動、生徒委員会活動を充実させ、主体的に活動できる力を育成する。

※年間遅刻総数(平成 28 年度 2256 人)を平成 31 年度には、1500 人以下とする。

※部活動加入率(平成 28 年度 38.5%)を平成 31 年度には、45%以上とする。

※生徒向け学校教育自己診断における特別活動関連の肯定的回答(平成 28 年度 55%)を平成 31 年度には、60%以上とする。

4. 地域に根ざした学校づくり

- 広報活動を充実させ、「魅力的な学校」「行きたい学校」をしての認知度を高める。

ア. HPや中学校訪問・学校説明会等を活用し、本校の教育活動の情報発信に努める。

- 家庭や地域との連携・協力体制の充実をはかり、生徒の自立を支援する。

ア. HPの更新、保護者向けメールサービスの充実に努める。

イ. PTA活動内容の充実により、PTA行事や学校行事への保護者の参加を増やす。

ウ. 地域の活動や地域に向けた取り組みに参加することで生徒に自己有用感をもたせ、地域に貢献する意識を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒：肯定的回答の高かった項目は、「自分は校則を守っている」(83.5%)、「進路についての情報を知る機会や場所がある」(76.0%)、「成績の内容や他人に知られたくないことなどについての個人情報を守られている」(71.3%)であった。否定的回答の高かった項目は、「学校の図書館を利用したことがある」(43.5%)、「学校生活について、先生の指導は納得できる」(39.7%)、「地域の方と交流する機会(老人ホームや保育園、幼稚園、地域フェスタ等)があった」(33.0%)であった。</p> <p>保護者：肯定的回答の高かった項目は、「学校は落ち着いていて、安心して学校生活を送ることができる」(74.7%)、「学校は、保護者が授業などを参観する機会を設けてくれている」(73.1%)であった。否定的回答の高かった項目は、「子どもは、学校の授業が分かりやすく楽しいと言っている」(43.8%)、「子どもは、学校の授業がためになっていると言っている」(38.8%)であった。</p> <p>教職員：肯定的回答の高かった項目は「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」(79.6%)、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」(77.5%)であった。否定的回答の高かった項目は、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(42.8%)、「生徒の学力向上ため、学校全体で取り組みを行っている」(40.8%)であった。</p>	<p>第 1 回 (7/7)</p> <p>○H29 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員から、普通科総合選択制から普通科専門コース設置校への教員配置について、部活動外部コーチの活用や顧問の配置について等についての質問があった。 いただいたご意見には、「3年間を見通した教育計画のあり方について系統立てて具体化することが重要である。」「今は過渡期である。ピンチをチャンスに変えてまずは、教員が元気で若い教員も十分にコミュニケーションが取れる職場にするように。」等があった。 <p>第 2 回 (11/24)</p> <p>○平成 29 年度の取組の進捗確認と改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員から、LGBT生徒への配慮(制服)について、インターネットを通して発覚する懲戒についての指導対応について等について質問があった。 いただいたご意見には、「中学校訪問においては、中学校が何を求めているかを理解し、専門コース設置の取り組みなどかわち野のウリをアピールするように。」「保護者の協力を得ながら、地元大切にされる学校になってほしい。」等があった。 <p>第 3 回 (2/16)</p> <p>○学校経営計画の取組みの自己評価を踏まえた次年度の学校経営計画策定に向けての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの数値が急激に変化しているものに関しては、その原因を探るべきである。それにより 2、3 年後に学校全体として成果が出る。 社会のルールを学ぶためにインターンシップを積極的に取り入れていくべきである。 学校と保護者がよりつながりを持ちながら子どもと関わっていくべきである。また、中学校や地域から中身の分かる学校になるようにして欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	<p>(1) 「わかる授業」の展開 ア. 生徒の実態把握および授業研究</p> <p>イ. 公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進 (2) 多様な進路実現のための取り組み ア. キャリア教育計画の充実</p> <p>イ. 進学支援体制の構築</p> <p>ウ. 各種検定受験の促進</p>	<p>(1) ア. 教科会議を週に1回開催し、生徒の情報交換や授業の情報交換を行う。 ・授業方法についての調査研究を行い、各教科で共有する。</p> <p>イ. 若手教員の授業研究会を中心に授業公開・研究協議を行う。 ・個人だけでなく各教科においても授業アンケートの結果の振り返りを行う。</p> <p>(2) ア. 3年間のキャリア教育計画を視覚化し、全教職員で共有する。 イ. 学力向上プロジェクトを中心に、3年間を見通した進学支援体制を構築する。 ・スキルアップトレーニングの効果的な活用を検討する。</p> <p>ウ. 各種検定の広報、受験者への指導を工夫する。</p>	<p>(1) ア. 学期に1回各教科の取り組みを共有する。</p> <p>イ. 授業研究会(H28 7回)を10回以上。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業が分かりやすい」(H28 57%)を60%。</p> <p>(2) ア. 各学年のキャリア教育計画表を作成する。 イ. 進学支援計画表を作成する。 ・スキルアップトレーニングの活用。</p> <p>ウ. 各種検定受験者(H28 16.2%)を20%以上。</p>	<p>(1) ア. 教科目標シートにより、学年ごとに目標設定→中間点検→総括を行い、教科内での情報共有を行った。また、教科目標シートは、閲覧可能で共有をすすめた。(○)</p> <p>イ. 校内での授業研究会は2回に留まったが、若手教員を中心に学外での授業研究会に参加し校内での研究協議を行う土台はできてきた。(△) ・振り返りシートの活用等により生徒が主体的に学ぶ授業への展開が増えたが、従来受け身の生徒が多いため「授業が分かりやすい」は53.2%となった。(△)</p> <p>(2) ア・イ. 計画表は学年ごとに形になってきている。またスキルアップトレーニングの活用についての検討は進んでいる。(○)</p> <p>ウ. 各種検定受験者は、8.6%(英25漢字35数0)、P検は1年生全員受験した。(△)</p>
2. 「豊かな心」の育成	<p>(1) 教育相談体制の充実 ア. 支援体制の整備</p> <p>(2) 人権尊重教育の推進 ア. 学校いじめ防止基本方針の徹底</p> <p>イ. 人権教育計画の充実 (3) コミュニケーション能力を養成する教育</p> <p>ア. ソーシャルスキルトレーニングの研究</p>	<p>(1) ア. 支援教育に関する共通認識、共通理解をはかる。 ・教育相談委員会から教育支援委員会への改編を行う。</p> <p>(2) ア. 学校いじめ防止基本方針の再確認により、安全で安心な居場所としての定着をはかる。 ・いじめ対策委員会の定期開催。</p> <p>イ. 3年間の人権教育計画を視覚化し、全教職員で共有する。</p> <p>(3) ア. ソーシャルスキルトレーニングについての調査研究を行う。</p>	<p>(1) ア. 教育支援委員会の設置および教職員への研修を行う。 ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答(H28 51%)54%。</p> <p>(2) ア. いじめ対策委員会を学期に1回定例化する。 ・生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答(H28 70%)を80%。</p> <p>イ. 各学年の人権教育計画を作成する。 ・生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定回答(H28 50%)を54%。</p> <p>(3) ア. ソーシャルスキルトレーニングに関する研修を行う。</p>	<p>(1) ア. 教育支援委員会を年間8回実施。教育相談・支援体制の確立に向けて土台をつくった。(○) ・教育相談関連の肯定的回答は53.6%、生徒が相談しやすい環境が整いつつある。(○)</p> <p>(2) ア. いじめ対策委員会は学期に1回、また必要に応じて行い、生徒の情報共有、いじめの未然防止に努めた。(○) ・「学校に行くのは楽しい」は64.4%と下がったことの検証が課題である。(△)</p> <p>イ. 人権教育計画は概ね作成できた。(○) ・人権教育関連の肯定的回答は67.1%と生徒の意識が高まってきた。(◎)</p> <p>(3) ア. ソーシャルスキルトレーニングの必要性についての理解は増えてきたが研修まではできなかった。(△)</p>
3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に行動する力」の育成	<p>(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進 ア. 遅刻者数の減少とマナーの向上</p> <p>(2) 生徒自らが積極的・主体的に活動できる力の育成 ア. LHR・総合的な学習の時間の計画充実</p> <p>イ. 部活動の活性化と生徒会活動の充実</p>	<p>(1) ア. 遅刻について丁寧な指導により意識を高める。 ・教職員、PTA、生徒によるあいさつ運動をすすめる。 ・服装指導についても丁寧で粘り強い指導を進める。</p> <p>(2) ア. 3年間のLHR計画、総合的な学習の時間の計画を視覚化し、全教職員で共有する。</p> <p>イ. 新入生による部活動見学会、部活動体験の見直しと退部率の調査から活性化を考える。 ・生徒の活動領域を増やし、生徒の自主活動を促進する。</p>	<p>(1) ア. 年間遅刻総数(H28 2256件)を1800件。 ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答(H28 85%)を88%。</p> <p>(2) ア. LHR計画、総合的な学習の時間の計画をまとめ共有する。 ・生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答(H28 54%)を58%。</p> <p>イ. 部活動加入率(H28 38.5%)を40%。 ・生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答(H28 56%)を58%。</p>	<p>(1) ア. 年間遅刻総数は、2185件であった。遅刻を繰り返す生徒の指導の検討が必要である。(△) ・服装、挨拶などマナーの向上が見られるにも関わらず、学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答は71.2%と低下している。次年度は生徒たちの意識を深く掘り下げたい。(△)</p> <p>(2) ア. LHR計画・総合的な学習の時間の計画は学年主任の打ち合わせで共有した。(○) ・HR活動の肯定的回答は59.6%であった。教職員のHR運営への努力によると思われる。(◎) イ. 部活動加入率は、今年度の1年生の加入が増え、45.9%であった。(◎) ・学校行事関連の肯定的回答は73.2%と行事への積極的な取り組みが表れている。(○)</p>
4. 地域に根ざした学校づくり	<p>(1) 広報活動の充実 ア. HPや中学校訪問・学校説明会等の活用</p> <p>イ. 地域の活動や地域に向けた取り組みの参加</p>	<p>(1) ア. HPでは、日常的に生徒の活動を発信する。 ・中学校訪問・学校説明会についての実施形態を検討する。</p> <p>イ. 地域の行事への本校生徒の参加をすすめる。 ・本校において地域中学校との部活動での連携をすすめる。</p>	<p>(1) ア. 毎月2回以上発信。 ・学校説明会への参加中学生(H28 439名)を500名。</p> <p>イ. 地域のイベント参加生徒数(H28 30名)45名。 ・中学校との部活動交流「かわち野カップ」の実施。</p>	<p>(1) ア. HPのトップページは適宜更新。学校ブログは月平均10回発信できた。(◎) ・学校説明会への参加中学生は、577名であった。(○)*最終回含まず イ. 盾津ふれあい祭りに女子ダンス部25名、ブレイクダンス部12名の合計37名参加。(○) ・「かわち野カップ」は女子バレーボール部、男女バスケットボール部で実施。(○)</p>